平成２０年度少人数指導計画（算数科）

上三川町立上三川小学校

１　ねらい

児童一人一人の理解や習熟の程度に応じ、「つまずき」を克服させたり、課題にじっくり取り組ませたりするため、Ｔ・Ｔ指導や習熟度別指導など個に応じた指導を算数科において取り入れ、個に応じたきめ細かな指導を通して、児童に基礎・基本を確実に定着させる。

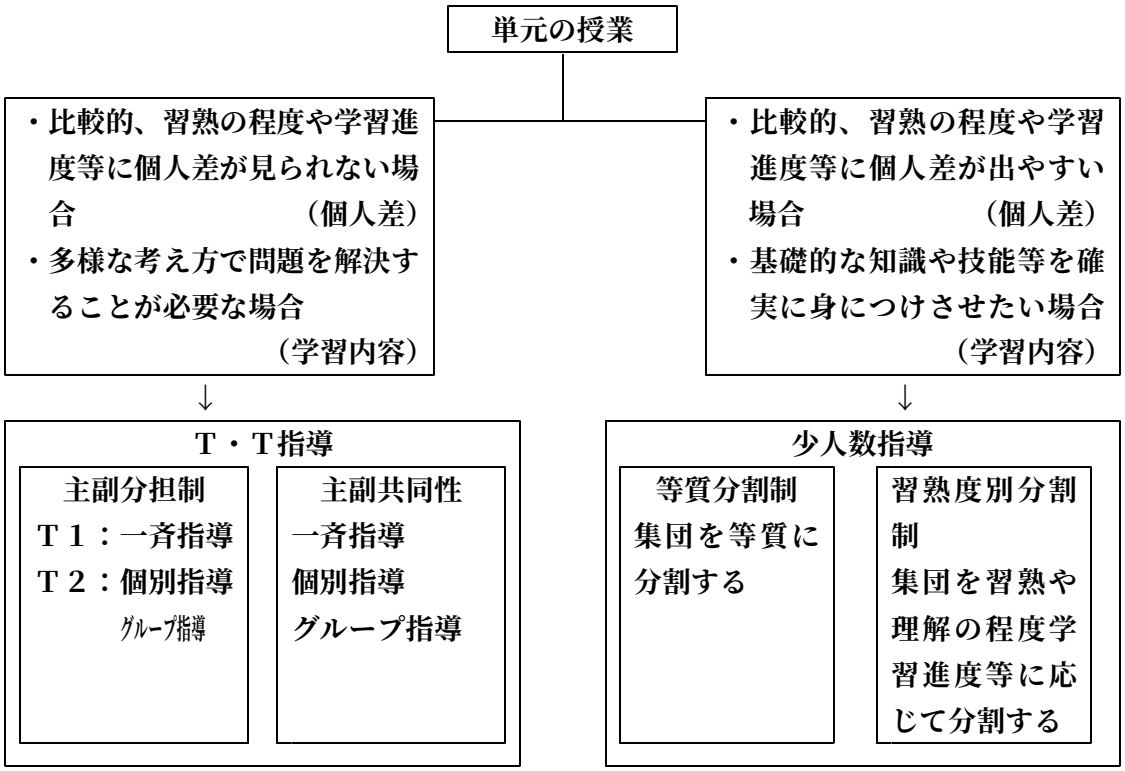
２　指導形態及び指導分担について

Ｔ・Ｔ指導においては、Ｔ　１・Ｔ２の役割については固定化せず、Ｔ１が一斉指導、Ｔ２が個別指導やグループ指導を行う「主副分担制」と、Ｔ１・Ｔ２ともに一斉指導や個別指導・グループ指導を行う「主副共同制」を柔軟に取り入れていく。

また、児童の実態や学習内容に応じて単元の一部で少人数指導を行う。少人数指導については、集団を等質に分割する「等質分割制」と、習熟や理解の程度、学習進度等に応じて集団を分割する「習熟度別分割制」を適宜取り入れる。少人数指導を実施する単元等については、『実施単元一覧』を参考に、児童の実態により学年で検討し決定する。少人数指導は、学年の担任と教務主任、学習指導主任、Ｔ・Ｔ指導担当の教員が分担して行う。

また、「朝１０タイム」や「パワーアップタイム」の指導については、今年度も、担任の他に、教頭、教務主任、学習指導主任、Ｔ・Ｔ指導担当の教員、専科教員、指導助手等もローテーションを組み、各クラス児童の指導を行っていく。

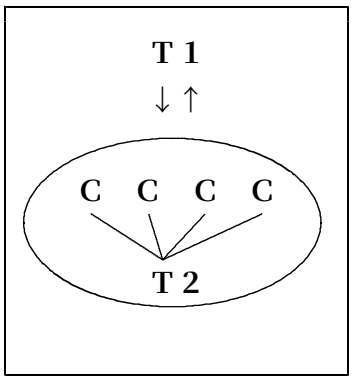
３　Ｔ・Ｔ指導と少人数指導についての基本的な考え方



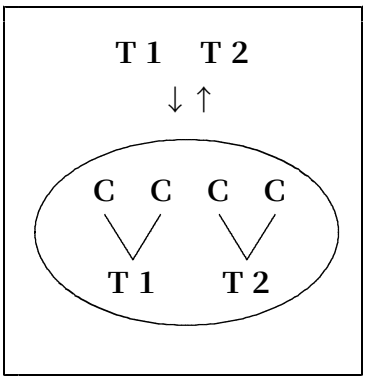
		Ｔ・Ｔ指導	少人数指導	
			等質分割制	習熟度別分割制
児童側	発表する機会	変わらない	増える	増える
	多様な考え方での問題の解決	できやすい	できにくい	難しい
	理解や習熟の程度、興味・関心に応じた課題設定	変わらない	しやすい	とてもしやすい
	成就感や達成感、分かることの面白さ	得やすい	得やすい	とても得やすい
	優劣感や差別意識	抱かせにくい	抱かせにくい	抱かせることがないよう配慮が必要　※人権教育の重要性
教師側	理解や習熟の程度に応じた指導	しやすい	しやすい	とてもしやすい
	児童指導	とてもしやすい	しやすい（児童理解の面では担任の指導が好ましい）	しやすい（児童理解の面では担任の指導が好ましい）
	教材研究、準備等の負担	分担できるメリットはあるが、話し合い調整を図る時間等の確保が必要		
	学習のしつけやノート指導等の徹底	徹底できる	徹底しやすい	徹底しやすい
	授業進度の格差	生じにくい	生じやすい	生じやすい
	指導者間の指導力による格差	生じにくい	生じやすい	生じやすい
保護者側	保護者の理解	得やすい	得やすい	得ることができるよう努める必要がある

※１クラスを担任のみで一斉指導する場合と、Ｔ・Ｔ指導及び少人数指導を比較した。

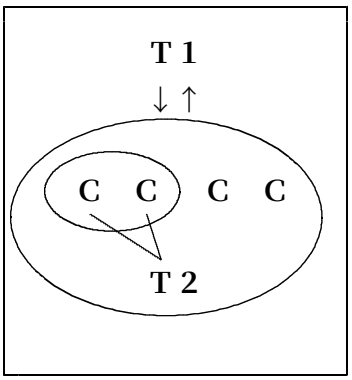
① Ｔ・Ｔ指導における個に応じた指導の基本型



「主副分担制」



「主副共同制」

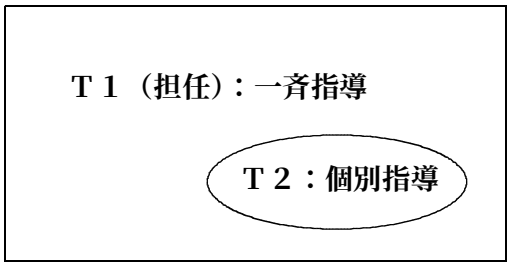


より個に応じた「主副分担制」

１Ｃ１Ｔによる一斉指導は、基本的な生活習慣や望ましい学習ルール等を身に付けさせることに有効である。お互いの考えを共有させたり深めさせたりが容易であり、また、学習指導と生活指導の一体化がしやすい等のよさも考えられる。

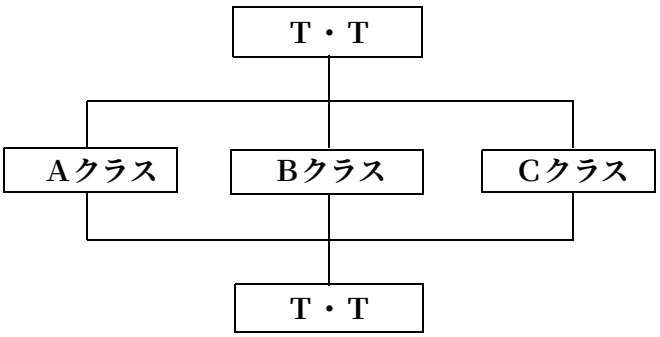
１Ｃ１Ｔでも個別指導やグループ指導は可能であるが、そこに教師をもう一名加え、１Ｃ２Ｔで柔軟に個別指導やグループ指導等を取り入れることにより、より個に応じたきめ細かな指導を行っていく。

② 低学年における個に応じた指導の基本型



低学年では生活指導を含めて、クラス担任を中心としてＴ・Ｔ等の指導で授業を進めた方がよいのではないかと考え、本校の低学年における個に応じた指導の基本型を図のように考える。

③ 等質分割制における個に応じた指導の基本型

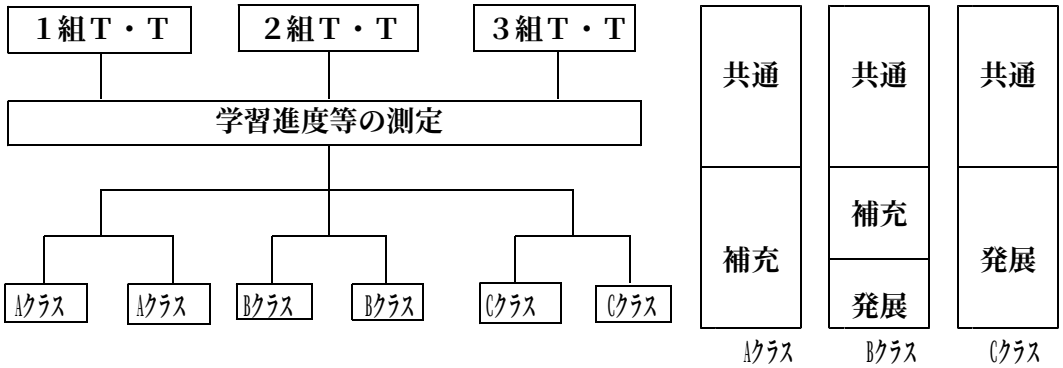


１学級を２つないし３つの等質集団に分けることで、小規模の学習集団を編成する。それぞれの集団を担任と教務主任、学習指導主任及びＴ・Ｔ指導担当の教員が授業を担当する。１学級を複数の教師が共同して授業を展開することになるが、単元や内容によりＴ・Ｔ指導と少人数指導を組み合わせて実施していく。また、学習集団は固定化せず、単元や内容により学習集団の編成替えを行う。

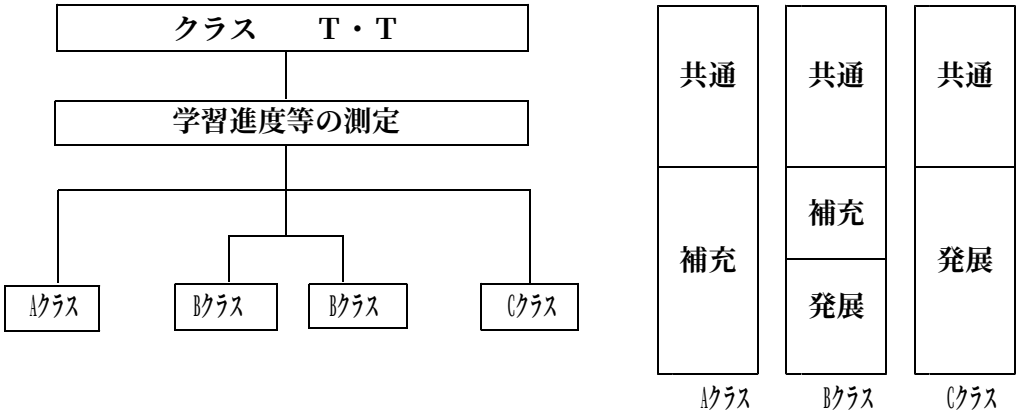
具体物の操作や体験的な活動を学習に取り入れる場合、まとめの段階で再び学級単位で学習を進め、お互いの考えを共有したり深めたりする場合に、この基本型を取り入れていくようにする。また、補充的な学習や発展的な学習をする場合にも有効である。

④ 習熟度別分割制における個に応じた指導の基本型

【学年習熟度別分割制】



【学級習熟度別分割制】



※児童の希望によって、各コースの設定数を調整する。

児童に分かる授業を通して、学習のおもしろさを実感させ学習意欲を高めること、基礎・基本の習得の徹底を図ることを意図した基本型である。学年習熟度別分割制では、学年３クラスを解体し、３コース６グループ程度を編成する。学級習熟度別分割制では、学級を解体し、３コース４グループ程度を編成する。

習熟度別指導は、児童一人一人の学習進度等の違いに応じて適切に進めるものであるので、その測定を行い、児童がコースを選択する際の参考とする。それぞれの集団を、学年の担任、教務主任、学習指導主任及びＴ・Ｔ指導担当の教員が授業を担当する。

この基本型は、習熟の程度が著しく現れた学習の場合や過去の実態調査などで達成度が低い単元の指導に実施していく。また、数と計算領域は学習のステップが明確であるため、この基本型が有効であり、積極的に実施していきたい。

４　少人数指導のおおまかな流れ

学年主任が中心となり、学年の少人数指導を運営する。

１	単元の学習の大きな流れについて話し合う。 ・何を目標に、どのように単元の学習を構成するか。　・どんな学習をどのような学習形態で実施するか。
２	単元の学習計画を立てる。 ・単元の目標、主な学習内容、学習活動、学習形態、指導者等の計画を立てる。
３	コース分けと児童・保護者への説明 ・児童や保護者に対する説明を十分に行い、児童の心情に留意したコース分けをする。
４	授業の準備をする。 ・教材、教具の準備をする。授業前の打ち合わせ、調整準備等を行う。
５	授業を実施する。
６	授業後の反省をする。 ・目標に合った学習活動や学習形態であったか。 ・個に応じた指導方法、内容であったか。（コースごとの指導内容や進度は適切であったかなど）　・指導者の役割は効果的であったか。

5　コース選択について

児童にどのようなスタイルで学習を進めるのかを説明したり、学習進度等の測定を実施したりしてその結果等を参考にさせる。家庭での話し合いに基づいて、児童の意思を尊重し、児童が主体的にコースを選択できるようにする。そのためには児童の自己評価力が必要であり、コースの選択をさせる場合に、自分にとって「よく分かる授業」であるかどうかを判断基準とさせていく。

児童の心情に留意したコース分けを実施するため、児童や保護者に対する説明を十分に行うこととする。また、コースは固定化せず、単元毎に児童に選択させるようにする。

6　評価について

児童の理解や習熟、関心・意欲等、個に応じた指導を充実するために、習熟度別や課題別等による少人数指導を積極的に取り入れて指導の効果を上げることは重要であると考える。これらの指導方法を取り入れるためには、クラス集団を一旦解体し、新たな学習集団を編成することになる。そのため、複数の指導者間で児童の学習状況についての情報を十分に共通理解しておく必要がある。また、指導計画等について連携を図る必要もある。

そこで、児童の変容を的確に把握し、評価に関わる情報の蓄積を図る体制づくりが欠かせないと考える。学習状況を記入する名簿や自己評価カード、ノートやワークシートのコピー等を共有するなど、指導者間の連携を工夫していく。

7　「朝１０タイム」および「パワーアップタイム」について

補充的な学習を行う場として、朝の学習「朝１０タイム」を週２回１０分間実施する。ねらいは、学習習慣を身に付けることと、漢字の読み書き及び計算の技能の習得である。計算の技能の習得においては本校オリジナルの自作プリントを用いて学習を進めていく。漢字の読み書きについては「漢字ドリル」「漢字スキル」等、学年で使用している教材を使用する。児童には自己教育力を育成するために、「朝１０タイム」専用のノートを持たせ学習に取り組ませる。

また月曜日の５校時（１・２学年）、６校時（３～６学年）には、「パワーアップタイム」の時間を設定する。基礎的・基本的事項の習得及び発展的な学習や補充的な学習等を行う時間とする。体験等を取り入れながら楽しく学び考える力が育つ工夫を図り、各学年で計画をたてて実践していく。